

## 7月21日「帰って来た弟」ルカ福音書 15：11～24

イエスさまは神さまってこんな方だよと教えてくれた。あるところに、兄弟がいた。お兄ちゃんは真面目でしっかり者。弟はちょっとちゃらんぽらん。ある時、弟はお父さんに「僕が貰うことになっている財産を全部ください！」と言った。そうして、たくさんの財産を貰った弟は、それをお金に代えて、遠くの町へ出かけて行った。欲しいものを買ったり、美味しい物を食べたり、友達と遊んだり、たくさんお金を使って、弟はお父さんからもらったお金をあっという間に全部使い果たしてしまった。すっからかんになった弟は仕方ないから働くことにした。弟が雇ってもらった仕事は豚のお世話係。みんなは豚のことどう思う？とんかつとかハムとか美味しいよね？でもイスラエルの人たちは豚を怖い動物だと思っていて、食べることはもちろん触ることも怖がっていた。弟はそんな豚の世話をしている仕事をしていて、けれども、あんまりにもお腹が空き過ぎて、豚が食べてる餌を食べたいと思うくらいになった。そこで弟は「ハッ」とした。「何て僕は悪いことをしてしまったんだ！お父さんのところへ戻って、神さまとお父さんにごめんなさいと言おう！そしてお父さんのところで真面目に働こう！」そう思った弟はお父さんのところへ帰って行った。弟がお家の近くまで来ると、遠くから走ってくる人がいた。誰？そう、お父さん！お父さんは弟のことを心配して、毎日弟を待っていた。お父さんは弟に走って近寄って、ギュッと抱きしめてキスをした！そして弟が帰って来たお祝いにパーティーを始めた。

神さまはこのお父さんみたいな方だよってイエス様は教えてくれた。私たちがどんなところへ行っても、どこでどんなに大きな失敗をしても、たとえ神さまから離れてしまうようなことがあっても、いつも私たちのことを愛して、心配して待っていてくれる。そして帰ってきたら心から喜んでくださる！僕は生まれた時から教会に通っている。というか親に連れられて教会に来ていた。でも、部活が始まって、少し大きくなって教会に行くのがなんだか恥ずかしくて嫌になった時期もあった。でも、高校生の時に、学校があんまり面白くなくなった時に、イエス様の話を聞きたくなくて教会に帰って来た。その時に、教会の人達に温かく迎えてもらったことを今でも覚えている。ここに集まっている大人の人たちだってずっと教会に繋がりに続けている人はそうはいない。お家の都合、仕事の都合、結婚や進学、ただ何となく・・・神さまと離れてしまう時期があった人も大勢いる。でも何かがあって皆戻ってきて、今こうして集まっている。今日ここに居るみんなにももしかしたらそういう時期が来るかもしれない。でも覚えていてほしい。神さまはそんな私たちのことも決して見捨てない。いつでも帰ってくるのを待っていてくれる。そして帰ってきたら「ずっと帰ってくるのを待ってたよ！」喜んで走ってきてギュッとしてくれる。

と言うのが、今日読んだところまでのお話。実はこのお話には続きがある。さあ、いよいよ弟が帰って来たことをお祝いするパーティーが始まりました。音楽やダンスの楽しそうな音が家の外まで聞こえています。でも、家の外でぶすつとふてくされている人がいました。誰でしょう？そう！お兄ちゃんです。お兄ちゃんはちっとも家に入ってこようとしない。なんでだと思う？「弟ばかり狡猾って思ってたらしい。様子を見に来たお父さんにこんな風に言います。「僕が真面目に働いている間、お父さんは一度もパーティーなんかしてくれなかったのに、すっからかんになって帰って来たあなたの息子のためにお父さんはパーティーをしてやるんですか！？」お父さんはそんなお兄ちゃんに言いました。「死んだと思っていたお前の弟が帰って来たんだよ！一緒に喜んでほしいな！」

みんなはどう思う？確かに、お兄ちゃんの気持ちも良くわかるよね。みんなの中に兄弟がいる人はいますか？僕は4人兄弟で下に2人の妹と9才年齢の離れた弟がいる。僕が高校を受験する時に福井県から神戸に引っ越すことになった。僕は福井県の公立高校を受験したいと言ったのにお母さんは「ダメだ！」と言った。僕は仕方なく全然知らない西宮市の公立高校に行くことになった。9年後、僕の弟は、西宮市に住んでいたのに他の県の私立高校をわざわざ受験させてもらった。「なんでだよ！」とちょっと思った。みんなの中にも「妹ばかり優しくしてもらってる！」逆に「お姉ちゃんばかりわがママを言ってる」そんな風に兄弟や姉妹のことを羨ましく思う人が居るかもしれない。それがどうしても許せないこともあるかもしれない。

でもこれは面白くって、実は弟に聴くと、「親はお兄ちゃんの方に甘かった」って思っていたりする。僕の家では晩御飯にエビフライって絶対出なかった。理由は僕が嫌いだから。でも妹が嫌いなトマトも弟が嫌いな豆腐も出て来るんだよね。だから、案外そういうことっておあいこだったりする。今日の話もこの時はたまたまお兄ちゃんが正しかつたけれど、弟の方がお父さんのお手伝いを頑張っていたり、優しくしてた時もあったかもしれない。きっとね、どちらか片方だけが大事ってことじゃない。弟もお兄ちゃんも神さまはどちらも大切に愛してくださっている。お父さん（神さま）は遠くから帰って来た弟も、なかなか家に入って来ないお兄ちゃんも迎えに行ってくれる。

それでもね、神さまは私たちに神さまと同じように誰か他の人の失敗や間違いを受け入れて、赦して、愛するようになって欲しいと願っている。誰かが失敗して、傷付いて帰ってきたら一緒に喜べるようになって欲しいと神さまは願っている。お父さんはお兄ちゃんにこう言う。「お前のあの弟は死んでいたのに生き返ったんだよ。」お兄ちゃんはお父さんに文句を言う時こんな風に言ったのね「あなたのあの息子が帰ってきたらパーティーするのですか！？つまり、帰って来たのは「わたしの」息子じゃなくて、「お前の」弟だよ！家族や友達が優しくされたり、赦されたりすることは、私たちにとって全然関係ない事ではない。誰かの嬉しいことは私にとって嬉しい事なんです！だから神さまはみんなにも同じことを言います。「赦してもらったのは、誰かの子じゃなくて、あなたの兄弟姉妹だよ。あなたの大切な仲間だよ！一緒に喜ぼうよ！」私たちも、同じように他の人のことを自分のことのように喜びたい。誰かの過ちを自分のことのように赦したい。イエス様は1番大切な掟をこんな風に教えられたのです。「隣人を自分のように愛しなさい」